

高等学校国語「国語総合」学習指導案

令和元年〇月〇日〇限
埼玉県立大宮高等学校
第1学年〇組〇名
授業者 横山大基

1 科目 国語総合「国語総合 改訂版 現代文編」大修館書店

2 単元名 評論（三）『「美しさの発見」について』高階秀爾

3 単元設定の意図

（1）学級・生徒観

学問に対する好奇心が強く、自らの進路実現に向けて積極的に勉強に取り組んでいる。生徒の集中を持続させるために、授業展開の工夫や継続的な机間指導を行っている。

正解に辿りつくべく熱心に考えを深める反面、授業中に間違った発言をすることを恐れている側面もあり、現代文の授業では、正解・不正解の無い、自分の意見を述べられるような発問を増やすよう心がけている。これまでに評論「他者を理解するということ」（鷲田清一）を学んでおり、評論の基本的な読み方は一度経験している。

（2）教材観

苦手とする生徒の多い芸術論である。「芸術」は自分たちの生活と離れた高尚なものであり、理解しがたいものだと思われているようで、ひいて「芸術論」もまた敬遠されやすい。加えて本教材では、物自体に美しさはあるのか、人間が美しさを感じ取るだけなのか、といった美についての主体客体の問題も扱われており、一層難解にみえる。

しかし、ここで説かれている「美しさ」は何も芸術のこののみを指すのではなく、我々が日常で感じる美しさも射程に入る。正しく読めば、日常と大に関わる文章であることがわかる。また、主体客体の問題は既習の「他者を理解するということ」と共通の話題であるため、両文章を繋げて読むこともできる。

評論読解の基礎段階として、具体例と本論、比喻、対立語を意識させる好教材でもある。

（3）本単元で工夫する点や手立て

導入を工夫し、本教材と実生活が関わっていることを認識させたい。いきなり本文に入るのではなく、扱う文章を示す前に、生徒に「美しい」と感じるもの及びその理由を考えさせる。その考えを文章として書き起こさせ、班内で発表、さらにクラス内で発表・共有をさせる。この活動を通して、説得力を伴った論理力、アウトプット力を身に付けさせたい。

その後、生徒の発表したものから、1つの疑問点を提示し、その疑問を解決するのが本教材だとして本論に入る。

本文の読解においてもグループワーク・発表を効果的に用いて授業を展開する。支援が必要な生徒及びグループについては、設問の条件を緩めたり、助言をしたりして、生徒自身で書く・話すことができる段階まで支援を行う。

4 単元の目標

- (1) 論理的な文章を、具体例と本論、比喻、対立語を意識して読み、筆者の意図をとらえようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 論理的な文章を、具体例と本論、比喻、対立語を意識して読み、筆者の意図をとらえている。
(読む能力)「C 読むこと」の(1)のエ
- (3) 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
(知識・理解) [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)のイ(イ)

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 知識・理解
単元の評価規準	論理的な文章を、具体例と本論、比喻、対立語を意識して読み、筆者の意図をとらえようとしている。	論理的な文章を、具体例と本論、比喻、対立語を意識して読み、筆者の意図をとらえている。 【関連】 学習指導要領「国語総合」 「C 読むこと」の(1)のエ	文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。 【関連】 学習指導要領「国語総合」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)のイ(イ)
学習活動における具体的評価規準	① 自身の体験と結び付けながら、「芸術」についての自身の考えを根拠を持って説明しようとする。 ② 筆者の意図をとらえながら、本文の読解を通して「芸術」について再考しようとしている。	③ 本文での対立構造をとらえ、本論が示されている箇所がわかる。 ④ 具体例や比喻が表している内容をとらえている。 ⑤ 筆者の意図を考えながら、正しく伝わりやすく音読できる。	⑥ 主体・客体、主観・客観の概念について理解している。

6 単元の指導と評価の計画（全3時間扱い）

時	主な学習活動・内容	具体的評価規準	教師の指導・援助	評価方法 (評価の観点・方法)
1 本 時	○自分が思う「美しいもの」「美しくないもの」を理由とともに 列挙し、発表する。	アー①	○生徒の自由な意見を引き出す。 ○書きあがり次第グループワークに移行する。	【評価規準】 ・自分の意見を理由とともに書こうとしている。 【関心・意欲・態度】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問・ワークシート

1 本時	○クラスメイトとの意見の齟齬の原因を考える。 ○本文音読	ウー⑥ イー⑤	○生徒の意見を生かし齟齬を生じさせる。 ○クラスメイト間で齟齬が生じた原因が本文で説明されている旨を伝え音読に入る。	【規準に達しない生徒への手立て(以下Cへの手立て)】 ●「美しいもの」「美しいもの」のかわりに「好きなもの」「嫌いなもの」を書かせる。 【評価規準】 ・人によって見方が変わることを理解しその原因を考えている。 【知識・理解】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問・ワークシート 【評価規準】 ・筆者の意図を考えながら、正しく伝わりやすく音読している。 【読む能力】 【評価方法】「行動の観察」
2	○本文を4つの意味段落に分け、それぞれの意味段落に表題をつける。 ○筆者の主張に関する単語を1～3文字でできるだけ多く抜き出す。 ○意味段落と抜き出した単語との連関を考える。	イー③ イー③④ イー③④	○個人作業で意味段落分けをし、3, 4人班で話し合わせ表題をつけさせる。 ○個人作業後班で共有させ、精査させる。 ○各意味段落での単語の使われ方を確認する。	【評価規準】 ・正しく意味段落分けをしている。 ・論理の展開にあわせ簡潔に表題をつけている。 【読む能力】 【評価方法】「記述の確認」 観察・発問 【評価規準】 ・筆者の主張と、主張を強調するための対論とを分けている。 【読む能力】 【評価方法】「記述の点検」 【評価規準】 ・譲歩として使われているのか本論の一部なのか理解している。 【読む能力】 【評価方法】「行動の確認」 【Cへの手立て】 ●本論か対論かに限らず単語を抜き出させ、その後班員とともに、どちらに分類されるか考えさせる。

3	○意味段落ごとに与えられた設問に答える。	イー④	○生徒が前時に抜き出した比喻・具体例を用いて説問を与える。3,4人班で考えさせる。	【評価規準】 ・ 比喻表現や具体例が表す内容を理解している。 【読む能力】 【評価方法】 「行動の確認」 観察・発問 【評価規準】 ・ 本文を通して伝えたい筆者の意図をとらえている。 【読む能力】 【評価方法】 「行動の確認」 【評価規準】 ・ 文章のテーマの1つが主観客観の問題であることを理解している。 【知識・理解】 ・ 芸術の鑑賞が他者理解と共通しているところがあることをとらえようとしている。 【関心・意欲・態度】 【評価方法】 「行動の確認」 【C への手立て】 ●前時で学んだ意味段落分けを再度確認する。
	○文章全体を通した読解につながる説問に答える。	イー③ ④	○前時に分けた意味段落の流れをふまえた説問を与える。3,4人班で考えさせる。	
	○既習の『他者を理解するということ』との類似点を考える。	アー② ウー⑥	○筆者の本論と対論を、キーワードを手掛かりに対置して板書し、本論が人間側、対論がもの側に視点を置いていることを示す。3,4人班で考えさせる。	

7 本時の指導と評価の計画（1／3時間目）

（1）本時の目標

（i）他者と意見を交換しながら、自身の体験と結びつけ「芸術」について考えようとする。

（関心・意欲・態度）

（ii）主体・客体、主観・客観の概念について理解することにより、他者との意見の違いが生じる原因を理解する。

（知識・理解）

（2）本時の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 知識・理解
① 自身の体験と結び付けながら、「芸術」についての自身の考えを根拠を持って説明しようとしている。	⑤ 筆者の意図を考えながら、正しく伝わりやすく音読できる。	⑥ 主体・客体、主観・客観の概念について理解している。

（3）本時の展開

段階 時間	主な学習活動・内容	具体的 評価規準	教師の指導・援助	評価の実態 (評価の観点・方法)
導入	○単元の目標を伝える。 ○本時の目標を伝える。	アー①	○教員の実体験をもとに、教員自身も吟味した	【評価規準】 ・ 単元の目標及び本時の目

(5)			い問題だとして目標を伝える。	標を理解している。 【関心・意欲・態度】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問
展開 1 (25)	○自分が思う「美しいもの」「美しくないもの」を理由とともに列挙させ、発表させる。 ・個人でプリントを完成させる。(10) ・3, 4 人班をつくり、班のなかで発表し合う。(15)	アー①	○個人で書き終わり次第、グループワークに移行する。	【評価規準】 ・自分の意見を理由とともに書こうとしている。 【関心・意欲・態度】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問・ワークシート 【C への手立て】 ●「美しいもの」「美しくないもの」のかわりに「好きなもの」「嫌いなもの」を書かせる。
展開 2 (25)	○班の中から代表者 1 名がクラスに向けて発表する。(10) ○クラスメイト間で生じた意見の齟齬の原因を考える。(15)	アー① ウー⑥	○挙げている項目にかかわらず、根拠が論理的に書かれている生徒を代表として選ばせる。 ○生徒の発表には具体例や発展させた内容で反応する。 ○発表者以外の生徒には、納得した、共感したかを挙手で示させる。 ○最後 2 人の発表者は、1 人は「美しいもの」に挙げているものを、もう 1 人は「美しくないもの」として挙げている生徒 2 人を選び指名する。 ○「A は～～を美しいと思う」「B は～～を美しくないと思う」と板書したのち、「～～は、」と板書し、この後に何を書けば良いか問う。	【評価規準】 ・他者の発表を聞き、自分の感性との類似点・相違点を考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問 【評価規準】 ・人によってものの見方、価値判断が変わることを理解している。 【知識・理解】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問 【C への手立て】 ●発表の際は指名せず、クラスメイトの話を聞き自身と関連づけられているかを観察する。
まとめ (10)	○本文音読	イー⑤	○クラスメイト間で齟齬が生じた原因が本文で説明されている旨を伝え音読に入る。	【評価規準】 ・人によって見方が変わる こと及びその原因が、本文

	○次回の授業から本文の読解に入ることを伝える。		○一文ずつ順番に音読させる。	で論じられていることを理解して音読している。 【読む能力】 【評価方法】「行動の観察」 観察・発問
--	-------------------------	--	----------------	--